

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度			
				幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
基礎教育科目	必修 入門ゼミナール1	入門ゼミナールは、人文、社会、自然科学領域における読書や情報収集、レポート・小論文の作成、その発表と意見交換を通して、①基礎的リテラシー(文章力や表現力)、②学術的リテラシー(既存知識の基礎的理解を前提とした、自ら学ぶ方法)、および、③各学生の知的関心を反映した教養の涵養と習得に資することを目標とす	1. 基礎的リテラシー(文章力や表現力)を身につける。 2. 学術的リテラシー(既存知識の基礎的理解を前提とした、自ら学ぶ方法)を身につける。 3. 各学生の知的関心を反映した教養を身につける。	◎							◎		○	
	必修 入門ゼミナール2	同上	同上	◎							◎		○	
	必修 基礎ゼミナール1	人文、社会、自然科学領域、または経営学・ICT領域における読書や情報収集、レポート・小論文の作成、その発表と意見交換を通して、①基礎的リテラシー(文章力や表現力)、②学術的リテラシー(既存知識の基礎的理解を前提とした自ら学ぶ方法の体得)、および、③各自の知的関心を反映した教養の習得と涵養に資することを目標とする	自らが関心をもつテーマについて、各学問領域における知識と議論を参照しつつ、独自のレポート・小論文を作成する。その際、書籍やインターネットの資料の信頼性を客観的に考察し、発表や教員および他の学生との意見交換を通して、テーマを深化させる方法を学ぶ。	◎	◎	◎			○	○	○	◎		○
	必修 基礎ゼミナール2	3年次から始まる専門ゼミナール1～4では、自身がより深く修学する専門分野を決定し、研究テーマを決定して卒業研究の遂行ならびに卒業論文の作成に取り組む。その準備として、前半・後半で2つの異なるゼミナールでの学びを通して、それぞれの専門ゼミナールで必要となる専門知識を具体的にイメージできるようにするとともに、その基礎知識を習得する。 各ゼミナールでは、テーマに応じた資料の輪読や発表・討論を行い、その分野の基礎的な専門知識を習得するとともに、論理的思考力やアカデミック・ライティングおよびプレゼンテーション	・テーマに応じて必要な情報を集め、その内容を検討するとともに自身の考察を加えて発表・報告することができる(アカデミック・ライティングおよびプレゼンテーション力の習得)。 専門ゼミナール1～4で必要となる専門知識の概要を説明できる。	◎	◎	◎			○	○	○	◎		○
人間・社会に関する科目	選択 心理学1	私たちは、日常生活においても、自分や他者のことについていろいろと考える。心理学では、それとはまた違った視点—科学的な視点—から、人間のころについて研究する学問である。「心理学1」では、科学的にころを探求する方法とその成果について、基礎的な内容を学	①人間のころを探求する方法の歴史と現況について、概略を説明できる。 ②人間のころを構成するさまざまな機能(知覚、記憶、学習、動機づけ、言語、思考と創造性など)の基礎的な構成要素を説明できる。 ③人間のころの働きに関する個人差や発達の差異(パーソナリティ、人生初期の発達、青年期の課題など)について、代表的な理論を説明できる。	○										
	選択 心理学2	心理学の中でも、特に、対人関係、集団における個人、対人関係における諸問題などを学ぶことによって、心理学の知見を日常生活の人間関係形成に生かすことをめ	①自分から見た「わたし」と他者から見た「わたし」との関係について、その特徴を列記できる。 ②人間が他者から受ける影響についての代表的な知見について、説明できる。 ③集団間に生じる問題とその解決法について、例示できる。	○										
	選択 文学論	芥川龍之介の『桃太郎』他の短編小説を取り上げる。短編の中に込められている意図を考察し、併せて芥川龍之介の表現を獲得する。読者によって読みが違ふことを認識する。なにより小説の面白さを味わうことができ	1. 小説に込められた作者の意図を読み取る。 2. 小説は読者によって、読まれ方が変化することを認識する。 3. 自身の考えを文章によって他者に説明できる。	○										
	選択 哲学	哲学は実生活において役に立たない物の典型だと言われています。しかし、それは思いこみであり、私たちは哲学者たちの思想から大きな恩恵を受けています。哲学の役割は、概念を創造することで、この世界におけるさまざまな事象を把握することです。この講義では、デカルト、スピノザ、ライプニッツ、ニーチェといった哲学者たちの思想を、その背景と共に検討していくことで、彼らの創造した概念の意味について考えます。そうすることで、現代社会を理解するための道筋を示していくことが狙いです。また、難しく考えるよりも、教養を身につけて、人生における問題を肯定的に考えられるようになることを目的	①哲学者たちが展開した学説を理解すること。 ②一般的な教養を身につけることが人生を豊かにすることを理解すること。 ③自分と他人の意見を批判的に検討し、それを肯定的に生かせるようになること。 ④現代社会における問題について、自分ならどう考えるかを理由と共に述べられるようになること。	○										
	選択 現代芸術論	本年度は開講しない		○										

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度		
				幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養
社会参加の前提に関する科目	選択 社会学概論	[学校から仕事の世界への移行] 働くことに焦点を合わせ、経営組織の構成員として、職場集団のなかで与えられた職務を遂行しながら、加齢とともに人が発達・成長・社会化・個性化していく過程について学ぶ。学校から仕事の世界へ移行する直前の発達段階にある大学在学中に、経営組織の構成員として、一般に、多くの人が直面する働くことにかかわる出来事を事前に知ること、つまり、予期的社会化を授業のなかで経験したい。働くことにかかわる出来事として、具体的には、職業興味、職業選択、キャリア展望、組織社会化、職務満足、仕事の動機づけ、組織コミットメントなど、組織内キャリア発達に関する主な主題を取り上げ、共働き夫婦の仕事と家庭との調和をはじめ、職業生活にかかわる身近な問題について考えるための手がかりを示すことが目標である。	1. 受講学生が、仕事や働くことを自身の問題として現実的に考えるようになる。 2. 受講学生が、仕事や働くことに関する現代社会の諸問題を考えるようになる。 3. 受講学生が、就職することは、社会の構成員としての義務であることを知る。 4. 受講学生が、学卒後に働きながらどのような仕事経験をするかについて知る。 5. 受講学生が、働くことによって、人がどのように成長できるかについて考えるようになる。 6. 受講学生が、仕事や働くことが、男女間でどのように違うかについて考えるようになる。	○									
	選択 法学概論	この講義は、主として戦後から近年に至るまでの日本の法学名著を素材にして、法的なものの考え方、法的な議論の構図を学ぶことをねらいとしています。	到達目標は、(1)法学の基礎知識を身につけること(ただし、用語・概念の暗記ではなく、法のことばと日常のことばとの違いに敏感になること)、(2)法学の基本的思考法を理解すること(他の学問との思考法の違いをも理解すること)、(3)法学のおおよその分野の「土地勘」を得ることです。	○									
	選択 市民社会と政治	現在、我々が生活している社会すなわち現代社会は大衆社会であり、脱工業化社会＝情報化社会であり、それはまた市民革命によって出現した市民社会の延長線上にある。複雑多岐にわたって変化した活動する社会の実態を「政治」という視点で理解し、国際的な視野に立って日本の社会と政治について考えてみたい。そして、一市民あるいは一人間として地域社会の政治、日本の政治さらに国際政治とどう関わって行くべきか、考える。少子高齢化社会、グローバル化といわれる今の日本社会	①よき市民、有権者としての自覚を持つ②社会の動向に関心を持つ③故郷に愛着を持つ	○									
	選択 社会思想史	近代から現代における社会の変化に対し、人間がいかにそれを認識し、それに対しどのように対応して行ったかについて、日本や北東アジアを中心に考え、現代の社会や文化を考察し理解を深めることを目的とする。＜近代化＞＝Modernization、国民国家nation-stateの形成という視点から欧米社会と日本を含めた東アジア社会の比較対照する視点を構築したい。	国際的な視野で日本および日本社会をとらえる視点を持つ	○									
	選択 消費経済論	経済の実態構造のなかで、生産と消費は二つの基本的なモメントとして相互に制約し合う関係にある。しかしながら、生産を主体としたこれまでの経済学は大量生産のもとで公害や環境汚染、環境破壊につながる利益優先をもたらし、食の安全などを含めて多くの批判を受けることとなった。1960年代以降、消費者主権、消費者保護という立場から消費者を主体とした経済学の構築という理念が生まれ、消費者運動の発展のなかでP・L法をはじめ消費者の権利も拡大しつつある。本講義では、メディアおよび情報・通信の発達がこうした消費者行動にどのような影響を与えるかを中心に説明したい。パソコンを端末とするネットワークの進化が消費者行動に大きな変化をもたらし、それが流通変革へ、さらに生産システムの革新へと連鎖している。消費者の需要が量的にも質的にもかなり高い確率で生産へと伝達され、製品の安全や環境保護、リサイクルに生かされつつある。こうした	貨幣や金融を重点に経済活動における消費者の主体的役割の変化を最終的に理解してゆきたい。	○									
	選択 国際社会論	この講義では、近現代ヨーロッパ経済史を中心に先進資本主義諸国の社会経済システムとその変化を学ぶ。授業は、西洋経済史と同様、市場メカニズムと社会の関係に焦点をあて、①歴史的、理論的考察(市場と社会)、②先進諸国の戦後体制(1940-70年代)、③ネオリベラリズムの時代(1980-2000年代)、④今後の展望から構成し、それぞれの時代の社会経済政策の特徴を概論する。随時レポートの作成を求める。受講者数が少人数の場合は、類似または関連する内容をセミナー形式で学習する	参加者は、①戦後先進諸国の社会経済政策の基本的枠組み(ケインズ主義、混合経済、労使協調、福祉国家など)、および、②ネオリベラリズム(新自由主義)の時代におけるその変化を理解し、③わが国を含む先進諸国の現状をより広い、歴史的視点から考察する契機とする。	○									

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度		
				幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養
現代社会の課題に関する科目	選択 社会政策	今日、「消えた年金」をはじめとして日本の社会政策は戦後と呼ばれる期間のなかで最も大きな転換期を迎えている。社会政策は、本来経営者とは立場の違う労働者の労働や雇用、生活を守り発展させるため、社会権にもとづいて立法、実行された国の政策である。その中心は労働三権と社会保障であり、本講義では、前半の講義で労働組合の制度的問題、産業構造の変化と雇用の問題を、後半では社会保障のなかの社会保険制度、健康保険制度や年金保険制度を取り上げ、その詳細を説明する。とくに、ニートやフリーターなどの若者の雇用問題、派遣労働などの問題を丹念に解説し、講義の中で討議してゆきたい。また、少子・高齢社会の到来とともに公的な社会保険制度も財政悪化など大きな曲がり角に突き当たっている。その原因を具体的に解説するとともに社会保障における格差の問題、さらにその将来的ビジョンを	労働政策と社会保障を理論的な柱として社会政策の現段階を総合的に把握できることを最終目標とします。	○									
	選択 西洋経済史	この授業では近代ヨーロッパ経済史を中心に、歴史学の基礎概念を学ぶ。講義は、I 市場経済の概念、II 市場経済の形成とIII 市場経済の展開の3部から構成し、社会と経済のあり方を客観的かつグローバルな視点から考えるための基礎的教養を得ることを目標とする。履修者には、随時レポートの作成を求める。なお、受講者数が少人数の場合には、同一または類似テーマのテキストを輪読する形式に変更する場合がある。	参加者が、①基本的な歴史的概念(封建社会、市場経済、資本主義経済など)を理解し、②それぞれのテーマに関する経済史家たちの議論に触れることを通し、③事象の暗記とは異なる歴史理解の基礎を習得すること。	○									
	選択 地球の生態学1	環境が人間の生存と活動にどのように関わっているかを理解するには、生物と生物をとりまく諸現象の関連について多少なりとも認識する必要がある。地球環境にかかわる諸問題に共通する自然科学的原理を通して、自然環境の本質的な意味を理解し、人類を含む生物の生存について考える。単に個々の知識の習得のみならず、環境問題に対する「科学的なものの方・考え方」を養うこ	1.生態系の役割および生態系の破壊が与える影響について述べる事ができる。 2.地球環境問題群の全体像と相互作用について列挙できる。 3.主な地球環境問題について、その原因と影響について述べる事ができる。	○									
	選択 地球の生態学2	広範な課題である地球環境問題について、身近な問題を対象に種々のデータ処理や分析をとおして理解する。「地球の生態学1」で培った「地球規模で考える力」を「足下から行動する力」へと導き、問題を定量的・定性的に把握する能力、問題の所在を発見する能力、問題を解決する能力を育成する。主に、生物の成り立ちや進化・適応、個体群や群集レベルにおける生物と環境との相互関係、生態系の構造と機能などについて学習し、人類の生存にかかわる重大な課題である地球環境問題に関	1.生態系の役割および生態系の破壊が与える影響について説明できる。 2.生物進化の概念を理解し、進化を引き起こすメカニズムについて説明できる。 3.生態系の食物網や物質循環・エネルギー収支について述べる事ができる。	○									
選択 基礎英		本年度は開講しない		○									
選択 英語1	大学生に必要な基礎的な英語を、欧米で編集されたテキストとオーディオ教材を通して段階的に学習する。 言葉の学習のみならず、テキストやビデオに登場する様々な人々の言動や背景を通して外国事情を理解し、国際	英語の語彙・文法などの基礎力を身につける。		○									
選択 英語2	映画『ブラダを着た悪魔』を映像教材にしたテキストを使用します。この映画は、大学を卒業し、ニューヨークで就職活動をしてきたアンディが、有名なファッション雑誌「ランウェイ」の編集部就職し、上司ミランダの過酷な要求に悪戦苦闘しながら、自分探しをしていく様子をコメディタッチで描いた大ヒット作品です。ストーリーを楽しみながら、会話表現や文法事項を確認していきます。台詞を聞き取ることはもちろん、台詞を覚え、ロールプレイを通して重要表現を確実に身に付けていきます。 さらにテキストでは、アメリカの大学・大学生の就職活動・照会状などについての情報が載っており、映画の内容も仕事とプライベートの両立という身近でリアルなテーマを扱っているため、大学卒業後に直面するであろう問題につい	日常生活に必要な会話表現(決まり文句)を身に付ける。 日常会話で役立つ英文法を復習する。 「生の英語」を聞き取るコツ(脱落・連結・同化・弱体化などの音声変化)を習得する。		○									

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度		
				幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養
外国語科目	選択 英語3	洋画の台詞が聞き取れたらいいな、主人公のかっこいい台詞を英語で言ってみよう、と思ったことのある人も多いでしょう。この授業では、映画『ノッティングヒルの恋人』を教材として用い、台詞を聞き取ったり、文法事項を映画で実際に使われている表現から学び、楽しみながら、日常会話で利用できる英語表現を身に付けていきます。 また映画の内容に関連する追加情報も教科書に載っているの、適宜読んでいくことを通して、英語の読解力を伸ばすだけでなく、イギリスの文化・風習に対する理解を深めることを目指します。 この授業をきっかけにして、自分の好きな映画のDVDの英語字幕を利用して、	教科書で学習した文法事項や熟語表現を含む台詞を聞き取れるようにする。 聞き取った英語の台詞を覚え、日常会話表現を身に付ける。 映画の内容に関連する英文を読むことにより、読解力を伸ばすと共にイギリスの文化・風習に対する理解を深める。	○									
	選択 英語コミュニケーション1	English conversation for elementary level students. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.	Students will learn English useful for confidently communicating with native speakers in a variety of situations.	○									
	選択 英語コミュニケーション2	English conversation for high elementary level students. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.	Students will learn English useful for confidently communicating with native speakers in a variety of situations.	○									
	選択 ビジネス英語	Business English course for lower intermediate - intermediate students. All classes are taught in English.	Students will learn English useful for communicating in various business situations.	○									
	選択 ドイツ語1	あかずきんちゃんに住み、シンデレラ城のモデルのあるドイツ、クラシックとクラブミュージックの共存する音楽の国ドイツ、かと思えばベンツやバイエル製薬などの最先端企業のある国ドイツ、また原子力発電所撤廃など、世界のエコをリードしているのもドイツです。ドイツはいろいろな顔を持っています。そんな国で話される「ドイツ語」を話せるようになると、けっこうかっこいいと思いませんか？ この授業では、すぐ覚えられる、簡単なドイツ語を勉強しながら、ドイツという国を知り、日本とはちよつとちがう暮らし方、生き方を体験します。 豊橋はまた、ドイツ文化協会があったり、交換留学生が住んでいたり、ドイツとの交流が盛んです。もしかすると、地元	① ドイツ語らしい発音ができる。 ② ドイツ語の数字や簡単なあいさつができる。 ③ ドイツ語で数字が言える。 ④ 自分のことや旅行で使える表現がドイツ語で言える。 ⑤ ドイツ人のライフスタイルを知り、日本人としての教養を深める。	○									
	選択 ドイツ語2	外国語の勉強は、ほかの勉強以上に皆さんの脳を刺激し、はば広いものの見方、考え方を教えてくれます。 ドイツ語はローマ字読みが基本です。また、初歩的なきまりさえ理解すれば、あとは単語を覚えるだけですぐに簡単な会話ができるようになる言葉です。 前期にドイツ語を履修していた方は、復習しながら、前期とは違った、さまざまなドイツ語の言葉や会話の表現の練習ができるでしょう。 初めてのの方は、会話を楽しみながら、文の決まりやものの名前などを学んでいきましょう。 いろいろなドイツ文化のお話も紹介していきます。日本の違いに驚いたり、合理的なドイツのライフスタイルを体験したりして、いいところはどんどん吸収し、日本のよさにも改めて気づ	① ドイツ語らしい発音ができる ② ドイツ語で数字や簡単な挨拶が言える ③ 場面に応じたドイツ語が理解できる ④ 会話に必要な文法の基礎事項が理解できている ⑤ ドイツの社会や文化などを知り、教養を深める	○									
	選択 ドイツ語3	本年度は開講しない			○								
	選択 中国語1	中国語の発音と基本的な文法知識を学びます。 中国語の発音とピンイン(中国式ローマ字綴り)を学びつつ、さらに初歩的な文法事項を身につけていきます。	中国語の発音とピンイン(中国式ローマ字綴り)を習得する。		○								
	選択 中国語2	中国語の実用的な表現・フレーズを学ぶことによって、基礎的な語学力を固めていきます。	教科書の表現を正確に大きな声で発話することができ、関連文法事項を理解する。 中国語検定準4級～4級程度。		○								
	選択 日本語1	本年度は開講しない			○								
選択 日本語2	本年度は開講しない			○									
健康の維持向上	選択 スポーツ1	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 本授業では数種類のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。	○									

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度		
				幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養
・管理に関する科目	選択 スポーツ2	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 本授業では数種類のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。	○									
	選択 健康科学1	健康であるというのは、どのような状態を指すのか、また、私たちが健康な人生を送るにはどうしたらよいかについて考えながら、「生きる」ことについて概論的に学ぶ。健康は「適度な運動」「バランスのとれた食生活」「正しい生活習慣」から導き出せるものであることを認識し、日常生活の中で生活習慣病の予防と健康の維持を目標	1.生活習慣病を中心とした健康問題に関する知識を身につける。 2.健康維持・増進のための疾病予防・対策法を身につける。	○									
	選択 健康科学2	健康科学1で習得した知識を基礎として、日常生活の中における危険因子の存在について学習する。また科学技術の発展に伴う環境の変化が、人間の身体に与える影響について学習し、近未来的な視点から健康を考え	1.科学技術の発展に伴う健康問題に関する知識を身につける。 2.アスリートのトレーニング法等について科学的に見る目を養う。 3.将来、自らの職業を通じて他者の健康にかかわりを持つようになることを理解する。	○									
日本文化に関連する科目	選択 陶芸	本年度は開講しない		○									
	選択 茶道1	本学の茶道は南坊流であります。茶道の第一の段階は実際にふれなければならない点前の習熟であります。日本の伝統芸能の一つ、茶道で学ぶ、礼儀、作法、誠実の精神を養うことを目的とします。 茶道では主人は客を思い、客は主人を思い、お互いに思いやる心を持ち、茶の湯を行います。茶道具、掛物、季節のお花等にも目をむけて授業で学習した事を皆さんにもお茶会に参加する事で実践していただきたいです。 創造祭にお茶会を行いますのでこの機会に主客の心得を体験しませんか。	1. 茶道を通して、礼儀・作法・誠実の精神を養うこと 2. 茶道の基本に習熟すること 3. 茶道を通して日本文化を理解すること	○									
	選択 茶道2	本学の茶道は南坊流であります。茶道の第一の段階は実際にふれなければならない点前の習熟であります。日本の伝統芸能の一つ、茶道で学ぶ、礼儀、作法、誠実の精神を養うことを目的とします。 茶道では主人は客を思い、客は主人を思い、お互いに思いやる心を持ち、茶の湯を行います。茶道具、掛物、季節のお花等にも目をむけて授業で学習した事を皆さんにもお茶会に参加する事で実践していただきたいです。 創造祭にお茶会を行いますのでこの機会に主客の心得を体験しませんか。	1. 茶道を通して、礼儀・作法・誠実の精神を養うこと 2. 基本点前に習熟すること 3. 茶道を通して日本文化を理解すること	○									
	選択 華道1	日本の伝統文化いけ花のルーツを尋ねると池坊に逢います。四季の花、草木を通じて養われた豊かな心は、暮らしに癒しと潤いを与えてくれます。目まぐるしく移り変わる現代社会にこそ、ふと立ちどまって花を眺めるゆとりが大切です。 草木を注意深く見つめ、草木の自然の美しさをとらえることから始めます。	1. いけ花を通して、日本の伝統文化を理解すること。 2. 四季の草木に接して、豊かな心を養うこと。 3. 草木をいける心構えを身につけること。	○									
	選択 華道2	「いけ花」は季節、環境、観る人など、他との調和、映りを大切にします。 華道2ではその調和、映りを考え、花器との出会い、空間との関連を学んでいきます。 「いけ花」によって、創造する楽しさを感じ取り、美意識を養	1. いけ花を通して、日本の伝統文化を理解すること。 2. 四季の草木に接して、豊かな心を養うこと。 3. 草木をいける心構えを身につけること。	○									
専門教育科目	必修 職業研究	世の中の主な「仕事・職業」を解説することにより、自分自身の進路を考え、主体的な行動計画を策定できる知識を獲得する。このために本学部の授業科目と「仕事・職業」の関連を理解し、適切な科目選択をするために必要な基礎的な知識を習得することが本科目の目的である。	・主な産業及び職業の概要を説明できる。 ・ネットを活用した企業研究を体験し、得られる情報を整理し記述できる。 ・OB・OGの学生時代の経験を学び、4年間の学生生活の目標を表明できる。 ・当大学の特徴とカリキュラム体系を理解し、今後の履修計画としてまとめられる。 ・就職に対する心構えを説明できる。	○								◎	
	必修 キャリア形成	この科目では様々なキャリアを知ることで、学生1人ひとりの選択肢の幅、物の見方が更新されることを目的としている。さまざまなキャリアを歩んできている人材と接する機会を提供し、彼らがどのようなキャリアを歩んできているのか、キャリア発達という軸のもと、提示していく。	①キャリア発達について理解できる。 ②外部講師の話を理解し、自身のものの見方を更新することができる。 ③自身のキャリアについて考えることができる。	○								◎	

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

基礎科目	共通科目	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度				
					幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得	
		必修 国語表現法	現代社会において報告・連絡などは、文書によって行われることが一般的である。このような文書を作成するには、さまざまな決まりを理解してなくてはならない。 国語表現法では、レポートなどの論理的な文書を作成するために必要とされる知識を身につけることを目的とする。併せて、実社会で記される文書を正しく理解するために必要とされる知識を獲得する。	1. 日本語の基礎を身につける。 2. 文書作成に必要な知識を身につける。 3. 目的に応じた業務連絡文書を記述できるようになる。	◎									○		
		必修 社会人基礎	社会人・職業人としての自己実現のステージとして職業を捉え、自らがビジネスのプロとして社会的役割を認識し、責任感をもって行動ですることの大切さを培います。また、法律や社会のルール、組織規則等を守る意識を持たせることを目標とします。	社会人としてふさわしい心構えとビジネスマナーが身につく、実社会で戸惑うことなく行動できる人となること	○									◎		
		必修 キャリア開発1	専門科目の理解ならびに就業時に求められる基礎学力(数的理解)、理論や合理的思考を習得する。	・計算の優先順位を含め、基礎的な四則演算ができる ・割合と比の概念を理解して、損益算、仕事算、濃度算などに応用できる ・発生し得る状況を整理し、その組み合わせや確率を計算できる ・与えられた表から数的情報を正しく抽出して、必要な値を計算できる ・与えられた状況を正しく判断し、分かっていること、分かること、求めるべきことを整理して正しく結びつけ、説明できる。	◎									○		
		必修 キャリア開発2	【多様化する雇用環境の中、将来のキャリア形成に必要な理論や知識、実際に企業が若年者に求めているエンプロイアビリティを養い、自ら就業能力や意識を高める】なお、本科目は就職試験に対応する一般常識についても修得する。	①学習者が一般教養的な知識(政治・社会・経済・文化・歴史・漢字・ことわざ・同意語・反意語・同音異義語・難読漢字等)を持つ。 ②学習者が新聞やテレビをはじめ様々なチャンネルを用いて社会経済の動向や時事問題に対し、常に情報収集に努め、自ら意見を表明できる。 ③学習者が大卒就職筆記試験に必要な一般常識レベルへ到達する。 以上の3点を到達目標とする。	◎									◎		
		必修 就業体験講座	経営学では、経営組織における仕組みや機能、運営に必要な条件などが普遍的、一般的に体系化されている。この授業では、実際の企業での見学を通して、経営学の理解に必要な経営組織の働きに関する理解を深め、また、参加者の就業意識と意欲の涵養に努める。	参加者が、①事前学習と企業訪問を通して現代社会を支える多様な組織と産業領域に接し、②経営組織の機能を学び、また、③各自の就業について考察すること。										◎		
		インターンシップ	インターンシップとは、学生が企業・行政機関などにおいて、用意された実習内容に従って様々な就業体験を行うものである。 産学官連携で行う実践的教育を通して、問題を発見して解決する能力を滋養し、学生の学習意欲の喚起および高い就業意識の育成などの成果を「学びの往還」により得ることを目的としている。就業体験の事前準備の調査で得られた知識や情報と就業体験中に得られた知識・体験を総合し、独自のテーマに沿った分析や考察を就業体験後に報告することで、問題発見能力・解決力を習得することを旨とする。 また、就業体験を通して、起業家・経営者という職務の実態、経営意識のあり方、組織における人間関係の重要性、物作りや研究開発の重要性と喜び、企業人に必要な専門的能力および起業家精神、企業活動における日々の小さな	・実習先企業の概要・事業内容について説明できる。 ・実習配属先が、実習先企業の中でどのような位置付けにあるのかを説明できる。 ・実習内容が、実習配属先の業務の中でどのような位置付けにあるのかを説明できる。 ・実習内容の理解を深め、問題点・改善点などを考察できる。 ・上記の内容について報告書にまとめるとともに、口頭で発表することができる。										◎		
		必修 経営と情報	本科目は、専門科目の担当教員がオムニバス(輪番)形式で講義を担当する「プロムナード・レクチャー」である。本科目は、①担当者がそれぞれ専門領域の中心テーマや最新課題をできる限り分かりやすい言葉で解説し、②ビジネスや他領域との関連性を示し、③受講者が専門領域の講義に先立って領域全体を見渡せることを目的とする。また、各回の講義内容に関連したテーマでのレポート作成を通して、学生の積極的な意見を求める	・ビジネス/経営/情報活用に関連する現代社会のキーワードについて説明できる。 ・経営学部における学びの概略を説明できる。	○	○	○	○								
		必修 数学基礎	自然科学や社会科学では種々の現象を関数で表し、その増減・減少の状態を調べたり、最大値・最小値を求めることが多い。そのための有力な手段を与えてくれる微積分について学習する。経営学や経済学などの学習上、必要不可欠とされる微積分に関する基本的なことがらについて学ぶとともに、有力な解析手法ならびに精密な叙述力、正確な推理力を身につけることを目指す。	1.基本的な方程式・不等式を解くことができる。 2.微分・積分の仕組みを説明することができる。 3.データの特徴や傾向をとらえることができる。	◎											

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度		
			幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養
統計数学基礎	情報化社会の現今、確率や統計に関する知識は多くの分野や日常生活で必要である。その理論的背景の解説を通して、統計の見方、考え方、応用について学ぶ。各種の統計分布があること、それらの基礎統計量の計算法や意味を知り、それらをどのように応用するかについて述べる。品質管理、いろいろな推定、そして検定の方法などを具体的な例とともに考えていく。なお、はじめて確率・統計を学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開をめざす。	1.複雑なデータの特徴を数量的、視覚的に示すことができる。 2.統計学の基本的な考え方をを用いてデータ分析が行える。 3.代表的な仮説検定法について説明できる。	◎									
必修 コンピュータリテラシ1	大学での勉学と日常生活に必要なパソコンとWindowsの基本機能、ならびにアプリケーションソフトの基本操作・実践的な活用法を修得するために、ネットワーク(電子メールやWebブラウザ)とWindowsの基本操作、アプリケーションソフト(Word, Excel)の基本操作およびより高度な操作方法を実習する。 また、パソコン操作をより速く行えるようにするために、タッチタイピングを修得す	・パソコンとWindowsの基本操作ができる。 ・Wordを使用して、指定された書式に従って文書を作成できる。 ・Wordを使用して、図表を織り交ぜた文書を作成できる。 ・Excelを使用して、指定された書式に従って図表を作成できる。 ・Excelの関数を使用して、グループ化したデータに対する計算処理ができる。 ・Excelの関数を使用して、条件に合った処理を実行できる。 ・上記のような使用方法を修得して、レポートやビジネス文書の作成、数値演算、情報処理などが日常的に行える。 ・タッチタイピングにより、1分間に100文字以上の文字を入力	◎			○	○					
必修 コンピュータリテラシ2	大学での勉学と日常生活に必要なパソコンとWindowsの基本機能、ならびにアプリケーションソフトの基本操作・実践的な活用法を修得するために、ネットワーク(電子メールやWebブラウザ)とWindowsの基本操作、アプリケーションソフト(Word, Excel)の基本操作およびより高度な操作方法を実習する。 また、パソコン操作をより速く行えるようにするために、タッチタイピングを修得す	・パソコンとWindowsの基本操作ができる。 ・Wordを使用して、指定された書式に従って文書を作成できる。 ・Wordを使用して、図表を織り交ぜた文書を作成できる。 ・Excelを使用して、指定された書式に従って図表を作成できる。 ・Excelの関数を使用して、グループ化したデータに対する計算処理ができる。 ・Excelの関数を使用して、条件に合った処理を実行できる。 ・上記のような使用方法を修得して、レポートやビジネス文書の作成、数値演算、情報処理などが日常的に行える。 ・タッチタイピングにより、1分間に100文字以上の文字を入力	◎			○	○					
経営学 / 会計・財務科目	社会学入門	この講義では、主に戦後イギリスの社会史と社会学の成果を紹介する形で、実証的な観点から社会的な考え方の基礎を学ぶ。I 社会理論、II 社会的再生産—人口と家族、III 社会分化—階級とエスニシティ、IV 社会統合—福祉国家と教育、宗教、V 社会環境—都市と自然から数テーマを選択し、講義する予定。適宜、同一テーマに関するわが国の状況に言及し、比較考察を行う。受講者数が少人数の場合は、類似または関連する内容をセミナー形式で学習することがある。	◎	○								
必修	経済学入門	経済学とは、国民がものを生産する、売買するといった「経済的行動」を行うことにより、国民の豊かさがどうなるのかという結果を分析する学問である。経済学の知識を身につけることにより、国が豊かになるのかどうかという経済の先行きを予想したり、より国が豊かになるためにどのような政策が必要になるのかを理解することができる。 本講義は、経済学の入門編として、経済学の基礎的な考え方と分析方法についての解説を行う	◎	○								
必修	経営学入門	経営学とは、企業活動の効率性を高め、従業員をはじめとした企業関係者、そして社会全体を豊かにするための学問である。 企業が効率化を図る対象は、生産活動の効率化、販売活動の効率化、資金運用の効率化……など多岐に渡り、これに対応して経営学も多くの分野に発展し、細分化されている。 本講義では、日本の経営学者および実業家が執筆した『やさしい経営学』をテキストとして用い、経営学の諸理論の概要を説明する。	○	◎								
必修	簿記入門1	企業は様々な利害関係者のために、自身が営む経済活動の結果を報告する必要がある。その報告において用いられる技法が、「簿記」である。企業は、簿記を用いて、経済活動を記録、計算し、それを財務諸表という報告書に集約して、利害関係者に報告する。本講義では、企業において必要不可欠な簿記という技法の基礎を修	○	○	◎							
必修	簿記入門2	企業は様々な利害関係者のために、自身が営む経済活動の結果を報告する必要がある。その報告において用いられる技法が、「簿記」である。企業は、簿記を用いて、経済活動を記録、計算し、それを財務諸表という報告書に集約して、利害関係者に報告する。本講義では、企業において必要不可欠な簿記という技法の基礎を修	○	○	◎							

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解					思考・判断			意欲・態度		
			幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
コンピュータ簿記	個人商店、中小零細企業から大企業に至るまで、ほとんどすべての企業が何らかの会計ソフトの使用あるいは会計情報システムを構築してコンピュータ簿記を行っているのが現状である。この講義では、わが国の小規模企業で一番多く利用されている会計ソフト「弥生会計」に実際の会計業務と同じように証憑を見ながら仕訳入力できるように授業を行う。あわせて、会計情報の利用	ビジネス社会において、経理の実務を理解すること。 会計ソフトが生み出す会計情報を活用できること。 会計情報をもとに組織の中で経営判断を下すことができるようになること。	○	○	◎								
必修 会計学入門	会計を初めて学ぶ学生の中には、会計に拒絶反応を示す人もいられる。しかしながら、会計は思っているほど難しいものではない。会計の原点は、他人のお金を預かって、それをどのように使い、その結果どうなったかを、自分にお金を預けてくれた人たちに報告するという単純なものである。本講義では、そのような会計の基礎を学び、会計の全体像をつかむことを目的とする。	会社の決算書の全体像をつかめるようになる。	○	○	◎								
必修 流通入門	流通システムは消費者の生活の変化や、生産技術・輸送技術・情報通信技術……といった技術の進歩をきっかけとして進化していく。最近の事例としては、インターネットの発展によりネット通販が登場し、書籍や家電を扱っていた既存の流通・小売企業が脅かされているといった話は耳にしたことがあるだろう。流通システムには「このようにすれば良い」という最適解はなく、時代に合わせた変革が求められる。流通にたずさわる者には、現状を分析するための理論を習得するとともに、過去から現在にかけて流通システムがどのように進化してきたかという歴史に学び、将来を見据える能力が不可欠である。本講義は、流通論の初学者を対象とし、流通論の基本的な理論の解説と、先進的な流通企業事例の紹介を行い、履修者に流通システムについて分析する基礎的	・流通論について基礎的理論・概念を説明できる。 ・流通論の理論にもとづき、実際の流通システムの特長・競争優位性について分析・説明できる。 ・流通論の理論にもとづき、特定の流通システムの問題点を指摘し、改善・革新方法について説明できる。	○	◎									
情報コミュニケーション技術科目 必修 ICTと現代社会	現代は情報化時代と言われているように企業、医療、福祉などビジネス社会のあらゆる業務に関する情報がコンピュータや情報ネットワークを介して処理されているといっても過言ではない。このような社会においては、情報を活用する利用者としてコンピュータやネットワークに関する基礎的事項の修得は必要不可欠である。さらにシステムの開発者やビジネスとして活用するためには、さらに深い知識やスキルが必要になる。本講義では、情報化社会におけるネットワークに関する基礎的事項の修得を目指す。加えてICT技術者を目指すために必要な知識について解説し、情報関連科目との関連性について説明する。特に今日主要インフラの一つとなりつつあるインターネットがどのように働いているのか、インターネットを利用する立場から基本事項を解説する。また基本情報技術者試験における「ネットワーク」および	・ビジネスにおけるICTの必要性とその活用例を説明できる。 ・プログラミングの基本的な概念を説明できる。 ・データベースの基本的な構造を説明できる。 ・ネットワークの基本的な制御構造を説明できる。 ・情報化社会の問題点・課題について説明できる。	○	○	○	◎	○						
必修 コンピュータの基礎I	CompTIA Strata認定試験シリーズは、ITに関連する営業職種、新たにIT関連の職務に就く、IT関連の就職を希望する学生などを対象に作られた、ITに関する基本となる知識・スキルを評価する認定プログラムです。本講義では、CompTIA IT Fundamentalsの合格を目指し、知識や技能を身につけることを目的とする。	iPad用教材の基礎的な知識、技能について 教材の小テスト問題を通じてCompTIA IT Fundamentalsレベルの基礎知識を身につける。 模擬試験問題を通じて本試験合格レベルの知識を修得する。 CompTIA IT Fundamentalsの取得を目指します。	○			◎							

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

専門教育科目	基幹科目	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度			
					幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
		コンピュータの基礎2	コンピュータを利用する立場から特にソフトウェアに関連する知識を深めることを目的とする。なぜこれほどまで多く、多岐分野にわたってコンピュータが使われているかを考える。また、コンピュータを利用するにはどのような準備を行えばよいのか。どのような手順で使い易いシステムを作り上げていくのか、さらに、システム運用上生ずる情報セキュリティの問題などについて学習する。特に職業人として備えておくべき、次の情報技術に関する基礎的な知識を身につけることを目指す。 ・利用する情報機器及びシステムを把握するために必要な知識。 ・担当業務を理解する上で必要な企業活動や関連業務に関する知識。 ・担当業務の問題把握及び問題解決に必要な知識。 ・業務の分析やシステム化の支援に必要な情報シ	1.コンピュータの仕組みや基本動作について説明できる。 2.コンピュータシステムに関する諸量を計算することができる。 3.企業活動や関連業務の基本的な問題分析法及び解決手法について説明できる。	○			◎							
		必修 ICT応用	専門科目や卒業研究において、自ら情報コミュニケーション技術を活用して合理的・理論的にものごとを実践できるようになることを目的として、ビジネス社会において必要となる情報コミュニケーション技術の具体的な活用法を実践的な課題を題材に実習する。 また、グループによる演習および発表を通して、学びにおけるPDCA	・Excel、VBAマクロ、データベースの基本的な活用方法を習得して、必要なデータを抽出し、 それらの処理・分析ができる。 ・実習内容、計算手法、結果などを図表にまとめ、論理的なプレゼンテーション資料を作成 できる。 ・一連の演習および発表を通して、学びにおけるPDCAを実践できる。				○	◎	○	○	◎	○		◎
		必修 経営システム入門	この講義は、情報学科の立場から、広く経営活動とその管理活動の各フェーズに於いて必要になる情報、並びにその情報の処理及び管理等について理解することを目的とする。さらに、経営活動のプロセスにおいてプロセスの最適化を目指すために、最適化情報、即ちベスト・プラクティス(適用されている最善の方法)を如何に導出して行くかを事例と共に講義する。講義と演習を併用して	・経営活動とその管理活動の各フェーズに於いて必要になる基礎的な項目について理解する。 ・演習問題を通して経営システムの基礎問題を理解し解けるようになる。 ・その他の経営システムの基本的・応用的な問題について理解する。				○	◎	○	○		○		
専門教育科目	基幹科目	必修 プロジェクトマネジメント	プロジェクトとは、「ある成果物あるいはサービスを創出する(目的という)ためにチーム(プロジェクトチームという)を組んで行う期限のある活動」のことをいう。このプロジェクト活動を行うために、目的を果たすための目標を設定し、その達成のために相互に関連するタスク(活動)を構成し、いくつかの組織や人が参加して実施される。 プロジェクトマネジメントとは、このプロジェクトが目的を果たすために上手に進める活動のことをいう。プロジェクトチームで設定した目標を達成するためには、人(チームや外部組織)、行うべきタスク、スケジュール、金、設備、(IpadやPC)などをバランスよく調整し、全体の進捗状況を管理しなければならない。 本科目は、「プロジェクトマネジメント」を進めるために必要とする基礎となる知識、留意すべき点、チームワークの取り方等の理解を深めることを目的としている。また、本科目は、「プロジェクトマネジメント演習」の理論的裏づけを与えるものである。 なお、授業においては、理論とともに理解促進のため	・プロジェクトマネジメントを進めるうえでの基礎知識(会議運営の方法、グループ作業の方法、発想法、特性要因図)について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 PMBOKの内容について理解し、5つのプロジェクトマネジメント・プロセス群および9つの知識エリアについて自分の言葉で説明できるようになる。 PMBOKを活用したプロジェクトマネジメントの方法について理解し、実際のプロジェクト活動において活用できるようになる。									○	○	◎
		必修 プロジェクト実習1	社会(ビジネス)での活動はグループによる活動である。全ての意思決定は組織的に行われる。その様なビジネスシーンの中では、主体的にかつ協調的に活動を行う必要がある。本演習科目では、地域企業・行政機関等と連携して地域の課題解決に取り組むプロジェクト活動を実践する。そのために、学生自らが具体的な目標を設定したプロジェクトの計画、運営、進捗管理、報告書の作成の4段階をグループで実践し、事業運営についての知識の理解を深める。プロジェクト運営の基本的な運営方法やその技法について、「プロジェクトマネジメント」で修得した知識を具体的に実践する。また、活動を自省することにより、自らの長所や強みを理解して、プロジェクトが	以下の項目をできるようにする事を目標とする。 ・アイデアやプランの提案を行い、なすべきことを抽出してリスト化し、具体的行動が出来るようになる。 ・計画、運営、進捗管理、報告の作成の4段階にわけてプロジェクトを時間軸に沿って構成する。 ・今後の計画や見通しを立てるために必要な事項を多面的に判断し、それぞれの事項についての状況を理解する。 ・挨拶励行、礼儀作法、時間期日厳守などの規範を順守するとともに、メンバー間で順守する雰囲気形成する。 ・ミーティングや会議において、他者の意見を正しく聞き取り理解し、他者の理解を容易にする努力を行う。 ・自己の意見、アイデアやプランを正しく伝え、対立する意見や活動の優先順位に関してメンバー間で調整する。 ・グループ活動の中で、作業分担や役割分担の不平等感が生じた際には、感情的ではなく建設的方法を検討する。 ・決定された役割や分担作業について、自らの役割を意識し、協働と分担すべきことを理解して遂行する。									○	○	◎

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解					思考・判断			意欲・態度		
			幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
必修 プロジェクト実習2	社会(ビジネス)での活動はグループによる活動である。全ての意思決定は組織的に行われる。その様なビジネスシーンの中では、主体的にかつ協動的に活動を行う必要がある。本演習科目では、地域企業・行政機関等と連携して地域の課題解決に取り組むプロジェクト活動を実践する。そのために、学生自らが具体的な目標を設定したプロジェクトの計画、運営、進捗管理、報告書の作成の4段階をグループで実践し、事業運営についての知識の理解を深める。プロジェクト運営の基本的な運営方法やその技法について、「プロジェクトマネジメント」で修得した知識を具体的に実践する。また、活動を自省することにより、自らの長所や強みを理解して、プロジェクトが	以下の項目をできるようにする事を目標とする。 ・アイデアやプランの提案を行い、なすべきことを抽出してリスト化し、具体的行動が出来るようになる。 ・計画、運営、進捗管理、報告の作成の4段階にわけてプロジェクトを時間軸に沿って構成する。 ・今後の計画や見通しを立てるために必要な事項を多面的に判断し、それぞれの事項についての状況を理解する。 ・挨拶励行、礼儀作法、時間期日厳守などの規範を順守するとともに、メンバー間で順守する雰囲気形成する。 ・ミーティングや会議において、他者の意見を正しく聞き取り理解し、他者の理解を容易にする努力を行う。 ・自己の意見、アイデアやプランを正しく伝え、対立する意見や活動の優先順位に関してメンバー間で調整する。 ・グループ活動の中で、作業分担や役割分担の不平等感が生じた際には、感情的ではなく建設的方法を検討する。 ・決定された役割や分担作業について、自らの役割を意識し、協働と分担すべきことを理解して遂行する。								○	○	◎	
必修 経営ビジネス講座	現在の日本の経済・産業は、グローバル化の中で大きな変貌を遂げつつある。本講座では、ふだんの講義では聴けない、生きた学問を、日々企業活動に取り組まれている方がたからお話を伺うことにより、現実の企業・産業について理解を深めることを目的としている。外部からお招きする講師がたずさわっておられる業種分野は種々様々であるが、特長ある企業あるいは経営方式がユニークである企業の方に講師をお願いしている。この講義は、次の二つの講義がワンセットとして構成される。 ①教師がお招きする講師の企業や業界あるいは関連する知識について講義をする。教師の講義の狙いは、企業や業界、さらに関連する経営知識について予備知識を与え、問題意識を持たせることである。 ②講師から直接にお話を聞き、企業経営や業界の諸問題について理解を深める。また、質疑応答の時間を設けているので	①招聘講師の講義内容を理解し要点にまとめることができる ②①でまとめたことに対して自己の主張を提示し説明できる ③事前講義の内容と講師の講義内容を結びつけて説明できる								○	○	◎	
ビジネスプランニング	社会人で遭遇する事業計画や起業・創業する際に必要なスキルを養うことを目標にします。 相手との係わりのなかで、いかに相手にとって有益なプランを企画提案できることを理解・習得する。また経営とクオリティのバランス感覚を認識して、オリジナリティと優位性から他者からも認められるビジネスプランを完成させる。 各地で開催されている「ビジネスコンテスト」にエントリーをして社会	1、起業・創業の際に必要な基礎知識を習得できる。 2、自分の考えを具現化できるようにする。 3、ビジネスプランとして企画書が作成できる。										◎	
ビジネスプレゼンテーション	相手に伝達・行動をしてもらうための「魅せるプレゼンテーション技術」の基本を習得します。その手段・手法は大幅に広がり、意思を明確に伝達すること、情報の的確な把握とニーズに対応する問題解決能力を中心に自己表現をすることです。実際にプラン書を作成してもらい、東三河ビジネスコンテストなど対外的な機関にエントリーできるようにスキルを養います。	1、伝える技術を習得することができる。 2、論理的思考力を養うことができる 3、自分のアイデアを企画書にすることができる。 4、企画書に基づいて対外的なコンテストに発表することができる。 参考:この授業内で作成したプランを下記のコンテストで発表します。 2006～2012年まで連続7年間入賞。2015年も入賞。 ・浜松ビジネスのたまごコンテスト ・東三河ビジネスコンテスト ・ベンチャービジネスグランプリ										◎	
コミュニケーションスキル	ビジネス社会において、価値観や判断基準の異なる「人」と「場」の係わりが発生します。 人は財産であり、相手にとってよりよい善性表現をすることでコミュニケーションの円滑化を推進します。自己認識と他者理解から言語表現と非言語表現の基本を学び、コミュニケーション技法を演習することでトラブルやクレーム等のヒューマンエラーの対処法から問題解決能力を 習得します。 ヒューマンスキル向上からビジネスコミュニケーション力を養い、 特に、就職活動に役立つ採用側の観点から採	1、社会人に必要なコミュニケーション能力を養うことができる。 2、就職活動における「文章力」が養われる。 3、就職活動における「面接力」を個人・グループで身につけることができる。										◎	
経営学 必修 ミクロ経済学	市場経済においては、商品やサービスの価格運動を通じて資源や労働が社会的に配分されてゆく。こうした市場の価格運動を規定している消費者行動や生産者行動と、そこに含まれる諸要因を考察することがミクロ経済学の主要な目的となっている。本講義では、ミクロ経済学の方法およびその体系を独占段階をも含めて考察する	市場における価格変動をミクロモデルを使って分析し、適正な消費者行動また生産者行動がどのようなものかを最終的に判断してゆきます。								○	○	◎	

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度		
			幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養
マクロ経済学	失業やインフレーションなどこれまで様々な経済的な諸問題が生じる中で、国民所得の大きさが近、現代における豊かさの一つの指標になってきました。では、国民所得とはどのような概念なのか、また国民所得を動かす要因はどのようなものなのか、本講義ではこうしたマクロ経済学の基本的な諸課題を考察すると同時に、貨幣や信用、財政投融資などの諸範疇にも視野を広げて説明す	マクロ経済学の方法を使って国民所得論を分析し、最終的に有効需要論の政策的な妥当性を検討します。		○			○	◎	○			
経営情報システム	本科目は、企業経営における情報に対する基本的考え方と知識を理解することを目標とする。企業の情報の資源をシステムとしてとらえ、分析視角の理解を深める。	①情報システムの概要を説明できる ②経営情報システムの発展の過程を概説できる ③企業と情報環境の概要が説明できる ④マネジメントにおける情報化を解説できる ⑤情報処理パラダイム、知識創造パラダイムを説明できる ⑥問題解決、意思決定について概要を解説できる ⑦基幹情報システムを説明できる ⑧DSS(意思決定支援システム)、SIS(戦略的情報システム)、ビジネスインテリジェンスについて概説できる ⑨経営情報システムの設計・開発の概要を説明できる ⑩経営情報システムの管理方法を説明できる ⑪セキュリティ対策について説		○			◎	○	○			
必修 マーケティング	本講義では、企業経営におけるマーケティングの実例やケーススタディーをふまえながら、マーケティングの基本用語や機能を理解していくと共に、実社会の企業経営をマーケティング視点で見ていく力を養う。	・マーケティングの基本用語を理解し、説明できる。 ・マーケティングの機能や役割、戦略などを理解し、説明できる。		○			◎	○	○			
必修 経営管理論	経営管理(マネジメント)とは、組織のもつ能力を状況のニーズに適切にしながら、組織目的を達成していく過程である。 本科目は、経営管理に関する基礎用語や概念を整理しながら、ケーススタディや演習を通じて経営管理を体系的に理解することを目的とする。	①管理の概念を説明できる ②科学的管理法を説明できる ③フォーティズムを説明できる ④管理過程論を解説できる ⑤人間関係論を解説できる ⑥行動科学の概要を説明できる ⑦コンティンジェンシー理論を説明できる ⑧組織とは何か、組織形態など組織論の概要を解説できる ⑨経営計画と経営戦略を概説できる ⑩リーダーシップ論、マーケティング、生産管理、財務管理の概要を解説できる		○			◎	○	○			
社会政策と市場経済	この授業では、西欧諸国の“コーポラティズム(政労使、市民団体の協調と参加による政策形成システム)”をキーコンセプトに、EUの雇用・労働市場政策、成長戦略と労使関係の現代史を学ぶ。導入部分では、社会政策と市場経済に関する基礎的な理論を概観し、後半では、特に戦後体制から1980年代以降の“ネオリベラリズム(新自由主義)の時代”への転換期における社会経済政策の現代史を概観する。社会保障政策に関しては、上記テーマに関係する限りで言及する。講義における概念・理論部分と各国史、EU(欧州連合)の社会経済政策の順序と重心は、変更する場合がある。なお、受講者数が少人数の場合には、同一または類似テーマのテキスト	参加者は、①異なる先進資本主義諸国における政治と社会経済政策のあり方を学び、②わが国の現況に関して考察する一助とする。		○			○	◎	○			
会計・財務科目	商業簿記(上級)1	日々の経済活動を記録し、種々の財務諸表を作成して経営に役立てるには、簿記の知識は必須である。 本講義では、例題を通じて簿記の仕組みを学んでいく。	日商簿記2級程度の商業簿記の知識を習得する。			○		○	◎	○		
	商業簿記(上級)2	日々の経済活動を記録し、種々の財務諸表を作成して経営に役立てるには、簿記の知識は必須である。 本講義では、例題を通じて簿記の仕組みを学んでいく。	日商簿記2級程度の商業簿記の知識を習得する。			○		○	◎	○		
	工業簿記(上級)1	工業簿記は、製造業において製造活動の記録、計算のために使用される簿記であり、原価計算と密接な関係がある。 本講義では、例題を通じて工業簿記の仕組みを	日商簿記2級程度の工業簿記の知識を習得する。			○		○	◎	○		
	工業簿記(上級)2	工業簿記(上級)1を踏まえ、日商簿記2級試験合格のための演習を主に行う。	日商簿記2級程度の工業簿記の知識を定着させる。			○		○	◎	○		
情報コミュニケーション	必修 情報処理理論1	Excelは頻りに利用されるアプリケーションの一つであり、VisualBasicは入門的かつ広く普及しているパソコン用プログラム言語の一つである。これらを統合し、ユーザー特有の機能拡張を可能とするVBA(VisualBasicApplications)の技術を習得することを目的とする	・VBAの基本的な用語・知識等を理解し説明する事ができる ・VBAの基礎知識を基に簡単な例題を作成する事ができる				◎	○	◎	○		
	必修 情報処理実習1	Excelは頻りに利用されるアプリケーションの一つであり、VisualBasicは入門的かつ広く普及しているパソコン用プログラム言語の一つである。これらを統合し、ユーザー特有の機能拡張を可能とするVBA(VisualBasicApplications)の技術を習得することを目的とする	・VBAの基本的な用語・知識等を理解し説明する事ができる ・VBAの基礎知識を基に簡単な例題を作成する事ができる				◎	○	◎	○		

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

展開科目 / 関連科目	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度		
				幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養
技術科目	情報処理2	VisualBasicは入門的かつ広く普及しているパソコン用プログラム言語の一つである。コンピュータプログラムの仕組みを理解し、VisualBasicを用いて実際にプログラムを作成することで、基本的なプログラミング技術を習得することを目標とする。 本講義では、主にプログラム言語の文法およびアルゴリズム(計算手順)をメインとする。	・Visual Basicの基本的な用語・知識等を理解し説明する事ができる ・Visual Basicの基礎知識を基に基本的なプログラムを作成する事ができる ・簡単なプログラムとアルゴリズムについて理解し説明する事ができる				○	○	◎	○			
	情報処理実習2	VisualBasicは入門的かつ広く普及しているパソコン用プログラム言語の一つである。コンピュータプログラムの仕組みを理解し、VisualBasicを用いて実際にプログラムを作成することで、基本的なプログラミング技術を習得することを目標とする。 本講義では、主にGUIプログラム(Windows Formアプリケーション)をメインとする。	・Visual Basicの基本的な用語・知識等を理解し説明する事ができる ・Visual Basicの基礎知識を基に基本的なプログラムを作成する事ができる ・簡単なプログラムとアルゴリズムについて理解し説明する事ができる				○	○	◎	○			
	システム理論	ITパスポート試験とは、ITの知識(約6割)、経営・法務などの業務の知識(約4割)が出題されるIT系の国家試験の資格です。ITパスポート試験には、コンピュータの仕組みやプログラミングなどの情報技術に関する知識と経営の基礎的知識が必要となります。この講義では、1年次必修のコンピュータ基礎の情報技術の知識を前提として、ITパスポート試験に出題される経営分野の基本をしっかりと身につけることを目的とします。	ITパスポート試験に出題される経営分野の基礎的な知識について ・毎回の小テスト問題を通じて各項目について基礎レベルの知識を身につける。 ・まとめと確認テストを通じて、ストラテジ系とマネジメント系それぞれについて合格レベルの知識を習得する。 ・模擬試験問題を通じて、テクノロジー系を含め本試験合格レベルの知識を修得する。				○	○	◎	○			
	データサイエンス概論	IT技術の進歩により、企業は多種多様なデータをリアルタイムで入手するとともに、膨大なデータをコンピュータによって分析することが可能となった。統計学的知識によってデータを処理し、企業の戦略・戦術の策定、業務における様々な意思決定において正しい判断をするための支援をする学問がデータサイエンスである。 データサイエンスの担い手(データサイエンティスト)は、統計学の知識を身につけているだけでなく、データ分析を活用してビジネスに役立つ提言をする企画力が同時に求められる。 本講義では、まずビジネスにおいてデータサイエンスがどのように活用されているかの概略について解説する。その上で、統計学的な分析手法と、その手法がビジネスにおいてどのように活用可能かを紹介する。なお、本講義においては高度な数学的知識は求めず、各分析手法の特性と、その正しい活用法について理解・習	・企業経営におけるデータサイエンスの役割を説明できる。 ・企業経営に関するデータに対して、適切な統計手法を用いて分析できる。 ・統計分析結果から、経営的な提言を導き出すことができる。				○	○	◎	○			
	必修 データベース論基礎	目的:企業における複数の基幹業務を管理する経営情報システムがある。データベースは関連する基幹業務のデータを一元管理することができる。データベースシステムの設計と運用管理に必要な基本的な理論と情報技術を学ぶ。ここで学ぶ関係データベースの基礎理論は、顧客管理や請求管理などの基幹業務を対象にしたAccessによるデータベースシステム構築の技法と手順の理解を	・基礎:データベースの基礎的な理論と機能、そして主なデータモデルを学ぶ。 ・応用:演習科目で扱われる顧客管理、請求管理などの基幹業務と関連させて関係データベース(AccessおよびSQL)の実践的な活用方法を学ぶ。				◎	○	◎	○			
	必修 データベース実習基礎	関係データベースソフトのAccessを使いデータベース機能を具体的に学び、複数の基幹業務を事例にしてデータベースシステムの作成・運用・管理の方法を演習する。	・Accessの操作を通して、データベース基本機能を手順にしたがって演習することにより基礎レベルの知識技術を習得する。 ・Accessの関係データベース機能とマクロ機能を活用してアプリケーションソフトウェアを作成する。Accessの操作を通して、複数テーブルを関連付けるリレーションシップ機能を手順にしたがって学ぶ。 ・個別の演習問題を通して、データベースの正規化、リレーションシップ等の基礎的な作業が出来るようになる。				◎	○	◎	○			
	経営学	ビジネスエシックス	企業の不祥事が新聞などをにぎわしているが、法令遵守、人権、労働、環境などの多方面において、これからの企業は、企業倫理の確立、法令遵守の徹底、社会的説明責任の履行を益々要請される。 本コースは企業組織が市場からの信認と評価を得られるために、また企業の中で働く人々の労働環境を倫理という視点から改善するために、どのようなマネジメント・システムを構築すべきかについて基礎的な考え方とその枠組みを理解す	①経営倫理の概要を自己の言葉で説明できる ②経営倫理の歴史的背景と展開について解説できる ③企業の社会的責任について事例を含めて説明できる ④経営倫理と企業理念・哲学の関係を説明できる ⑤経営倫理と法・コンプライアンスについて説明できる ⑥コーポレート・ガバナンスのあり方と方法を説明できる ⑦経営倫理におけるステークホルダーの関係を説明できる ⑧ 倫理綱領の遵守の方法を説明できる ⑨経営倫理と組織体制の確立のありようを解説できる ⑩経営倫理における監査のありようを説明できる ⑪日本企業の経営倫理問題と対策を概説できる ⑫企業のグローバル化における経営倫理の課題を指摘で					○	○	○	◎	

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

目	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度			
				幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
	中小企業論	商品を買ったり、食事をしたりといった日常生活の各場面を思い起こせば、膨大な数の中小企業との接点があるはずである。このような目に見えるところ以外でも、高性能の製品を支える部品製造が町工場によって支えられているなど、中小企業は国の経済、国民の日常生活を支える重要な存在である。 本講義ではこの中小企業の経営活動に焦点を当て、経済における重要性、現在おかれている環境、経営の特徴について解説する。	・日本経済における中小企業の果たす意義を説明できる。 ・日本の中小企業の特徴、置かれている状況について説明できる。 ・中小企業経営に必要なマネジメントについて理解し、説明できる。					○	○	◎	○			
	日本経営史	歴史を学ぶということは、今あることの本質を探ることです。全てのものは歴史的産物であり、歴史的考察なくしてその本質を知ることはできません。そして経営史は、経営の歴史ですから、現代の経営の本質を把握する学問と言えますが、その学びの過程では、歴史上の魅力的な企業家やエピソード(出来事)に出会うことあり、そうした出会いこそ、歴史を学ぶ醍醐味であると思います。そこでこの講義でも、そうした歴史的人物や出来事との出会いを大切にしながら、現代経営の歴史的体系を学べるようにしたいと考えています。 なお、ここで言う経営の歴史とは、企業の歴史、企業家の歴史、経営	日本の現代企業経営が、どのように形成・発展してきたのかを把握し、その本質を理解できるようになることを、この講義の目標とします。それにより受講者は、日常で耳にする企業を身近に感じ、経営現象の本質を理解、自分の考えが持てるようになるでしょうが、同時に、自分にとって魅力的な企業家との出会い、重要な意味を持つエピソードと出会いが一つでも実現できれば良いと願っています。					○	○	◎	○			
	日本経済史	歴史とは、今ある現象の本質を歴史的因果関係をもって把握するものです。従って経済史は、現在の日本経済の本質を見極めるための学問と言うことができるでしょう。本質を見誤ると、その現象に対する判断を誤ることにつながります。経済は政治と密接な関係にありますから、誤った経済政策を防ぐためのものとも言えますが、多くの人は経済政策に携わるわけではありません。しかし、経済政策に対する自分なりの意見を持ち、評価することはできますし、そうした能力を持つことは、成熟した市民として大変に重要なことです。 本講義は、「日本経済史」ですから、日本の経済の歴史を学習しますが、上記の問題関心に基づき、時間的制約もあるので、話題を戦後の日本経済史に絞り、戦後日本経済の体験した、重要な、ある意味エポックメイキングとも言える経済的現象をトピックとして取り上げる方式を採用したいと考えて	この講義の受講者一人ひとりが、戦後日本経済の重要な出来事に関する因果関係を理解し、その出来事に対する自分なりの意見を持ち、評価できるようになることを、本講義の目標とします。					○	○	◎	○			
	経営戦略論	人は将来の夢・目標を持ち、それを実現するために今何をすべきなのかを考え、日々行動することで、人生を有意なものにすることができる。人の集まりである企業も同様であり、企業がどのようなビジネスをするのかについて掲げる「目標」、それを実現するためにどのような行動をするかという「シナリオ」をあわせたものが、経営戦略である。 企業はどのような目標を掲げ、どのように実現すべきなのか。経営戦略論は、経済学・経営学の諸領域における理論に基づいた演繹的考察、および現実の企業の成功・失敗事例に基づく帰納的考察によって有効な戦略について探る学問である。本講義は、経営戦略論の基礎的概念、理論、分析手法について解説し、企業事例に対して経営戦略論に基づいて分析・考察する能力	・経営戦略論の基礎的理論について説明できる。 ・経営戦略論における分析フレームワークを用いて、産業・企業の分析ができる。 ・企業・産業における動きについて、経営戦略論の視点から分析し、説明できる。					○	○	◎	○			
	産業政策	産業政策を理解するため、産業政策の対象範囲と経済学的位置づけを明確にし、戦後わが国の実施してきた具体的な政策を時代区分ごとに整理する。 高度経済成長後の政策は、国内産業の成長により、直接的な介入から補完的機能に変化してきたが、阿部政権に移行してから、「アベノミクス」に代表される政策が目ざされている。また21世紀の社会問題として循環型社会形成や地球環境問題さらにはグローバル化への対応などが重要課題とされている。 本講座では、アベノミクスの内容と循環型社会形成問題と地球温暖化問題に関	・産業政策の意義を高度成長期までとそれ以後とに区分して理解すること。 ・「アベノミクス」の3本の矢の具体的展開を理解すること。 ・「成長戦略」の具体的展開を理解すること。 ・TPP・EPAなどの内容と課題を理解すること。 ・循環型社会形成についての理解を深めること。 ・温暖化問題を理解すること。					○	○	◎	○			

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

専門教育科目	展開科目／関連科目	経営学科目	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度			
						幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
			産業組織	4年間の大学生生活を終えほとんどのものが「企業」に勤めることになる。では「企業」とは何か、また、市場競争の中で企業をはどのような組織、行動をとるのかを理解する。その際の分析方法は、主として産業組織論の手法を採用する。また、現在進行している企業の提携・合併およびグローバル化の実態を学び、「企業」とは何かをまなぶ。これからの企業はこれまでと異なり、企業単独で成長を達成するのではなく、他社との協力、場合によっては競争相手の企業とも連携しあいながら成長をしていかなければならない時代となっている。本講座では、このような企業の提携・合併・買収を中心に、その要因と成果を探ることにより今後の企業間競争の方向性を	・日本標準産業及び職業分類の内容を理解すること。 ・産業組織論の分析視覚を学ぶこと。 ・具体的な産業(例えば、自動車、鉄鋼、スーパー・コンビニなど)を取り上げ、国内の競争ばかりでなく、グローバル競争の事態を学ぶこと。 ・企業間連携及び合併提携の背景と要因を理解すること。					○	○	◎	○			
			経営組織論	協働をいかにして組織化していくかが経営組織のテーマである。本講義は、近代組織論、コンティンジェンシー理論、構造機能主義、情報処理モデル、グループダイナミクス、組織文化などの理論を取り上げる。	①講義内容を理解し説明することができる②①の内容に対して事例と結び付けて説明することができる					○	○	◎	○			
			イノベーションマネジメント	21世紀に入り、技術を経営の立場からマネジメントすることがますます重要になっている。本コースは技術がかかわる企業経営のイノベーションの戦略的マネジメントに関する基本的知識と実践的な考え方を学ぶ。さらに、イノベーションの推進に積極的に挑戦するコンセプト創造型のリーダーシップのあり方を考え	①イノベーションと技術の関係を説明できる②イノベーションのプロセスを解説できる③アントレプレナーの資質の概要を説明できる④コンセプトの創出の方法の概要を説明できる⑤新製品・新事業の創出の進め方を説明できる⑥経営戦略と技術戦略の関係や推進の方法を説明できる⑦R&D投資に関する理論を説明できる⑧知識創造経営の理論を説明できる⑨知的財産の戦略の方法を解説できる⑩技術のイノベーションとは何かを解説できる⑪イノベーションにおける					○	○	◎	○			
			商品企画論	商品企画とは、消費者のニーズ(潜在・顕在)をさまざまな形で掘り起し、商品コンセプトを考案し、商品化への橋渡しを行うことである。本コースは、これら一連の流れを手法と合わせて理解することを目的としている。商品企画の事例をいくつか紹介しながら、講義を展開する。	①商品企画の1連のプロセスを説明できる。②ニーズを発掘する方法論と手法を説明できる。(インタビュー、アンケートなど)③ポジショニング分析を活用できる。④アイデアを発想する方法論を使いこなせる。⑤コンジョイント分析を理解し、活用できる。⑥品質表を使いこなせる。⑦新製品の発想アイデアを提案できる。					○	○	○	◎			
			生産管理	本コースは生産のマネジメントの方法を解説するものである。最初に生産(ものづくり)のマネジメントすなわち「生産管理」について解説する(I部)。次に経営戦略を実行し、優位性を実現するための基盤となる各職能に共通なオペレーションをマネジメントするための考え方と方法論を理解することを目標とする(II部)。生産の管理はサービスのオペレーションをはじめいろいろなオペレーションの分野に応用が可能であるので、I部では生産に関するオペレーションに焦点をあててそのマネジメ	①1生産の概念と生産方式を説明できる②2生産管理の主要要素であるQCDDの管理方式を説明できる③オペレーションの概念を説明できる④問題解決の考え方、プロセスを説明できるとともに技法を使いこなせる					○	○	○	◎			
			人的資源管理論	人的資源管理の目的は、インプットとしての人的資源を効果的・効率的に確保し、育成し、活用し、処遇し、維持することによって、アウトプットとしての組織的、個人的ならびに社会的ニーズと満足を最大限に充足することにある。この目的を達成するために、具体的には要員計画、募集、採用、教育訓練、配置、異動、昇進、昇格、評価、賃金、福利厚生、定年退職などに関して、さまざまな人事施策が企画され運用されている。本コースでは、これまで日本の企業において、上述の諸点に関し、どのような人事哲学の基にどのような人事施策が導入され運用されてきたか、また、それらの施策が近年激しく起こっている環境変化の影響を受けて、どのように変革されようとしているかを講義し、その変革の是非について学生諸君と討議を重ねながら、これからの新しい人的資源管理	①講義内容を理解し説明することができる②①の内容に対して事例と結び付けて説明することができる					○	○	◎	○			
			組織行動論	組織行動論という科目では組織における人間行動の理解を深めることが目的となる。私たちが組織で働くとき、私たちはどんな場合にどのような反応をし、どのような行動をするのだろうか。マネジメントする側にたつたとすれば、どのようにしたら働く側から望む行動を引き出せるのだろうか。講義を通じてこれらについて理解を深めてい	①講義内容を理解し説明することができる②①の内容に対して自身の事例と結び付けて説明することができる					○	○	◎	○			

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度			
			幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
マーケティングリサーチ	企業のマーケティングは、優れたリサーチがなくては進められないことは言うまでもないが、実際には、調査そのものが目的化している面がある。本講義では、調査の手法そのものを深めるのではなく、マーケティングの課題解決のためのリサーチの進め方を理解することを目指す	マーケティングリサーチを、単に調査手法だけを理解するのではなく、マーケティング活動上、どういう機会にどういう調査が必要となるかの概略をつかむことを目標とする、					○	○	◎	○			
広告論	日常生活において、我々は毎日と言えるほど何らかの形で広告に触れている。本講義では、その広告がマーケティング・コミュニケーションの手段として持つ役割についての理論や実務上の知識を学ぶものである。	マーケティング・コミュニケーションの手段としての広告の歴史や理論を理解し、説明できる。 広告の実務上の知識について理解し、説明できる。 広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。					○	○	◎	○			
e-ビジネス	e-ビジネスは今や日本の流通システムを大きく変換しつつある。しかしe-ビジネスの学習は、新たなインターネット技術偏重が進められているのが現状である。本講義では、e-ビジネスの技術だけでなく、企業戦略や流通戦略とも関連させて、将来どういう業界に就職しても対応できる知識を得ることを目指す。	e-ビジネスの動向と課題について理解し、説明できる。 e-ビジネスと企業戦略や流通戦略との関係性を理解し、説明できる。					○	○	○	◎			
会社法	本年度は開講しない						○	○	○	◎			
会計・財務科目 企業会計論	財務会計の目的は、企業外部のさまざまな財務情報の利用者に対して、信頼しうる有用な会計情報を提供することにある。わが国では、こうした外部報告の目的を達成するため、一般に公正妥当と認められた企業会計の諸基準が形成されている。 その概略を、わかりやすく講	損益計算書及び貸借対照表の概要とその構成科目についての基本的な知識を習得する。					○	◎	○	○			
経営分析	投資者、債権者、経営者、従業員、国・地方自治体など企業を取り巻く多くの利害関係者は、その企業に対し各々何らかの利害を有し、様々な情報を採り入れて行う。 その情報の1つに投資者が投資意思決定を行う場合に必要な会計情報がある。意思決定をより適切なものにするためには、経営分析を行い、企業の実態を把握する必要がある。経営分析を行えば、その企業の問題点を把握することが可能となり、また、危機に陥る前に改善策を準備できる。一方、財務諸表に基づく企業間比較および期間比較が可能になるからである。本講義では、そのような役立ちを有する経営分析の主たる手法を修得	自身の関心ある企業について、収益性分析や安全性分析といった代表的な経営分析手法が実践できるようになる。					○	○	◎	○			
キャッシュフロー会計	企業の実績は財務会計の手続きにより作成された損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により利害関係者に開示される。しかし、企業の実態をより正確に把握するには、キャッシュ・フローの状況も確認する必要がある。そのために必要なのが、キャッシュ・フロー会計により作成されたキャッシュ・フロー計算書である。 本講座では、キャッシュ・フロー会計の意義、概要を学ぶとともに、実際にキャッシュ・フロー計算書を作成する。	損益計算書及び貸借対照表からキャッシュ・フロー計算書を作成する。					○	○	◎	○			
原価計算	原価計算は、製品ごとのコストを計算することであり、簿記とともに会計学の基礎科目としての性質を持っている。企業において、適切な利潤を確保するためには原価計算の知識が必須である。本講義では、原価・コストの持つ意味と製造過程においてどのように原価が発生していくのかを追うことで原価計算の基本を学習する。	原価計算の基本的な知識を習得する。					○	○	◎	○			
管理会計	企業の経営者や管理者は、適切な企業経営を行うため、管理会計を使って必要な情報を収集し、意思決定を行っている。管理会計は、意思決定しようとしている問題を数値化し、数量的に比較検討の上、最も有利な選択肢を導き出すものである。本講義では、管理会計に係る様々なトピックスについて概括的な説明を行う。	管理会計に係る基礎的な知識を習得する。					○	○	◎	○			
財務会計	財務会計とは、企業が営む経済活動を認識、測定し、企業の外部利害関係者に財務諸表等を通じて伝達することをその役割とする。本講義では、そのようなプロセスを伴う財務会計の目的・役割を支える会計理論の基礎を明らかにすることを目的とする。具体的には、各種の会計原則、会計基準等の内容を検討することになる。	財務諸表は、企業外部の利害関係者が、その企業を知る上で重要な情報源である。この講義で、財務諸表の基礎理論を修得することにより、財務諸表を通して提供される会計情報の特質究明が可能となる。					○	○	◎	○			

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度			
			幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
財務諸表論	財務会計の役割は、企業が営む経済活動を認識、測定し、企業の外部利害関係者に財務諸表等を通じて伝達することをその役割としている。所有と経営が分離している現代の企業経営において、財務会計、財務諸表が果たす役割は重要性が高い。その財務諸表は、会計基準に従うかたちで作成される。本講義では、各々の会計基準がどのような規定になっているかを明らかにすること	企業が公表する財務諸表は、企業取引を、会計基準に従って、纏め上げたものといえる。したがって、会計基準を把握しなければ、財務諸表を理解することは出来ない。この講義を受講することで、会計基準の規定を修得し、財務諸表を適切に理解できるようになる。					○	○	◎	○			
税務会計	日本の会計は会社法(商法)、金融商品取引法、税法という法の基に制度会計として成り立っています。いずれも企業を対象とするものの、会社法(商法)会計は株主のための配当可能利益の計算と債権者保護を、金融商品取引法会計は株式を公開して資金調達を行うため投資家保護を、税務会計は法人税の課税所得の計算を行うことを目的としています。 本講義では税法の規定にたがって課税所得の計算を行うための会計である税務会計を学びます。企業会計と税務会計の間には差異が存在しているので、本講義ではそれらの内容を検討して	これまで簿記・会計で学習してきた「収益－費用＝利益」という基本的な計算とこれから学習する「益金－損金＝所得」という法人税等を算出するための基本的な計算との比較検討を行います。 両者の間には、似ているようで似ていない部分があります。まずはその相違点について理解して下さい。 税法ではすべての企業取引の税務会計処理を個別に規定していません。その前提は「一般に公正妥当と認められる会計処理の基準」によって計算された企業利益を基礎にして、税務上の加算・減算を行うことによって課税所得が計算され、税率を乗ずることによって法人税等が算出される仕組みになっているからです。 受講者にはこうした構造を理解することを目標としています。					○	○	◎	○			
監査論	監査とは信頼性を付与する行為である。企業の監査には、内部の経営者のための内部監査と、外部の投資家や利害関係者のための外部監査がある。近代企業の監査要請はこのように二つの側面を持つと考えられるために、監査論も内部監査論と財務諸表の監査を中心とした会計監査とが研究されている。この講義では、財務会計制度を理解した上で、財務諸表の監査を中心に監査の歴史、監査基準の概要を学ぶ。企業が関わった事件、ケースも取り上げて、理解を深める。	企業社会における会計監査の役割を理解できるようになること。不正な財務報告(粉飾決算)撲滅のための社会的取り組みを理解する。 組織内の行為は監査の対象であることを理解させ、絶対に不正行為を行わないなどの健全な就業観・職業感を養う。					○	○	◎	○			
国際会計	会計基準は、各国の様々な環境に対応しながら、生成されてきた。そのため、国によって、会計基準が異なるのは当然のことであった。しかしながら、昨今、会計基準は国際的に統一されつつある。 本講義では、そのような国際的統一がなぜ起ころうとしているのか、および、そのような動向は会計の種々の目的に照らすと適切なものかどうかを考える力を養うことを目的とする。	国際会計の知識は、企業経営がグローバルに展開している現代において必要不可欠である。この講義を受講することで、国際的ビジネスパーソンに求められる国際会計の基礎知識を修得できる。					○	○	◎	○			
経営診断	有価証券報告書とは上場している会社が、投資家に対して様々な情報を提供するために、作成・開示することが義務付けられている書類である。メーカー、流通、サービスごとに代表的な企業の有価証券報告書(ユーホー)の分析を通じて、企業の経営診断の仕方を学ぶ。	有価証券報告書を用いた経営診断の方法や視点を理解する。 具体的には (1) 決算情報(2) 歴史や事業内容(3) グループ会社の状況(4) 従業員の給料(5) 倒産の危険性などである。					○	○	○	◎			
情報コミュニケーション技術科目	データベース論1	ビジネスの現場で求められる情報活用力を身につけるために、リレーショナルデータベースを扱うための標準言語SQLの基礎的な使用方法を、Oracleを用いて習得する。また、リレーショナルデータベースの基本操作を理解し、SQLによるデータベースの基本的な作成・管理方法を修得する。 以上のことを通して、オラクルマスター(Bronze)の資格取得の実力を身につけることを目指す。	以下のようなSQLの基本的な使用方法を修得する。 ・条件に合致するデータを選択することができる。 ・選択したデータの表示フォーマットを指定することができる。 ・条件により複数の処理内容に対応することができる。 ・複数の表を関連付けてデータを取り出すことができる。 ・グループでデータを取り扱い、合計値などの結果を求めることができる。 ・データのトランザクション処理の簡単な制御ができる。					○	○	◎	○		
	データベース実習1	ビジネスの現場で求められる情報活用力を身につけるために、リレーショナルデータベースを扱うための標準言語SQLの基礎的な使用方法を、Oracleを用いて修得する。また、リレーショナルデータベースの基本操作を理解し、SQLによるデータベースの基本的な作成・管理方法を修得する。 以上のことを通して、オラクルマスター(Bronze)の資格取得の実力を身につけることを目指す。	以下のようなSQLの基本的な使用方法を修得する。 ・条件に合致するデータを選択することができる。 ・選択したデータの表示フォーマットを指定することができる。 ・条件により複数の処理内容に対応することができる。 ・複数の表を関連付けてデータを取り出すことができる。 ・グループでデータを取り扱い、合計値などの結果を求めることができる。 ・データのトランザクション処理の簡単な制御ができる。					○	○	◎	○		
	データベース論2	ビジネスの現場で求められる情報活用力を身につけるために、データベース・ソフトの一つであるOracleの基本的な管理方法ならびにアーキテクチャの理解を通して、リレーショナルデータベースの基本的な管理方法を修得する。また、オラクルマスター(Bronze)の資格取得の実力を身につけることを目指す。	・リレーショナルデータベースの基本的な構造を説明できる。 ・リレーショナルデータベース・システムの基本的な管理内容について説明できる。 ・リレーショナルデータベース・システムの基本的な管理作業が実行できる。					○	○	◎	○		

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度			
			幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
データベース実習2	ビジネスの現場で求められる情報活用力を身につけるために、データベース・ソフトの一つである Oracle の基本的な管理方法ならびにアーキテクチャの理解を通して、リレーショナル・データベース基本的な管理方法を修得する。また、オラクルマスター(Bronze)の資格取得の実力を身につけることを目指す。	・リレーショナル・データベースの基本的な構造を説明できる。 ・リレーショナル・データベース・システムの基本的な管理内容について説明できる。 ・リレーショナル・データベース・システムの基本的な管理作業が実行できる。					○	○	◎	○			
プログラミング	数値データや画像、音声などのデジタルデータを処理する手順を記したものがプログラムであり、プログラムを作成することをプログラミングと呼ぶ。プログラムを作成するツール(プログラミング言語)には、BASIC、C言語、Java など様々存在する。 本講義では、プログラミング言語として広く利用されているC言語を用いてプログラミングの基礎を講義し、C言語の文法知識を学ぶとともに、データを処理する処理手順(アルゴリズム)の設計力を養う。現代の多くのプログラミング言語はC言語の影響を受けており、そのシンタックス(文法)は極めて類似している。このため、C言語の基本を学ぶことは、他の言語を	・テキスト等を参照せずに簡単なC言語のプログラムを正しく記述することができる ・問題解決や作業効率化のためにC言語のプログラムを活用できる ・自ら作成したプログラムについて仕様や動作を把握して説明できる ・自ら作成したプログラムの改善点・改良点を挙げる事ができる					○	○	◎	○			
プログラミング実習	本科目では、プログラミングで学んだC言語に関する知識に基づき、その理解をより深めるためのプログラミング演習課題に取り組む(実際のコーディング・コンパイル・実行)。	・テキスト等を参照せずに簡単なC言語のプログラムを正しく記述することができる ・問題解決や作業効率化のためにC言語のプログラムを活用できる ・自ら作成したプログラムについて仕様や動作を把握して説明できる ・自ら作成したプログラムの改善点・改良点を挙げる事ができる					○	○	◎	○			
CG	TVゲームやアニメーション、映画などで多く用いられているコンピュータグラフィックスについて、基本的な概念や用語を理解するとともに、3DCGソフトウェア(Maya)の基本的な操作方法を習得することを目的とする。	(1)モデリングについて ・NURBSプリミティブに対して拡大縮小/回転/移動、および、複製を用いることで、所望の立体を作成できる。 ・ポリゴンプリミティブに対して、エッジの挿入/頂点の移動、および、スムーズを用いる事で、所望の立体を作成できる。 (2)マテリアルについて ・立体に質感を割り当て、色付けすることができる。 ・ペイントツールを用いて立体に着色することができる。 ・立体をUV平面に展開し、グラフィックソフトウェアを用いて着色することができる。 (3)ライティングについて ・ライトを作成し、三点照明の原理を用いて立体を照らすことができる。 ・影を付けることができる。 (4)レンダリング ・作成した立体からCG画					○	○	◎	○			
CG実習	TVゲームやアニメーション、映画などで多く用いられているコンピュータグラフィックスについて、基本的な概念や用語を理解するとともに、3DCGソフトウェア(Maya)の基本的な操作方法を習得することを目的とする。	(1)モデリングについて ・NURBSプリミティブに対して拡大縮小/回転/移動、および、複製を用いることで、所望の立体を作成できる。 ・ポリゴンプリミティブに対して、エッジの挿入/頂点の移動、および、スムーズを用いる事で、所望の立体を作成できる。 (2)マテリアルについて ・立体に質感を割り当て、色付けすることができる。 ・ペイントツールを用いて立体に着色することができる。 ・立体をUV平面に展開し、グラフィックソフトウェアを用いて着色することができる。 (3)ライティングについて ・ライトを作成し、三点照明の原理を用いて立体を照らすことができる。 ・影を付けることができる。 (4)レンダリング ・作成した立体からCG画					○	○	◎	○			
ビジュアルデザイン	本講義では、デジタル画像の基本的な概念や用語を理解し、適切にデジタル画像を扱うための知識と技術を身に付けることを目標とする。本授業においては、広く一般に使われているデザインツールであるAdobe Illustrator,Photoshopを用いてデザイン素材の作成、写真加工について理解を深める。	(1)ベクタデータについて ・Illustratorのパスを操作し、所望の図形を描画することができる。 ・Illustratorの塗り/線の色を操作することができる。 ・Illustratorのパスで描画した図形や文字をアウトライン化することができる。 (2)ラスターデータについて ・Photoshopを用いて写真の明るさや色調を補正することができる。 ・Photoshopのフィルタ機能を使うことができる。 ・Photoshopのレイヤー効果を使い、文字や画像にスタイルを設定することができる。 ・Photoshopで複数の写真を合成することができる。 (3)紙面デザインについて ・IllustratorとPhotoshopを適切に用いて、ビジュアル的な紙面を作成することができる。 ・ガイドや定規の機能を用いて、レイアウトを計画することができる。					○	○	◎	○			
ビジュアルデザイン実習	本講義では、デジタル画像の基本的な概念や用語を理解し、適切にデジタル画像を扱うための知識と技術を身に付けることを目標とする。本授業においては、広く一般に使われているデザインツールであるAdobe Illustrator,Photoshopを用いてデザイン素材の作成、写真加工について理解を深める。	(1)ベクタデータについて ・Illustratorのパスを操作し、所望の図形を描画することができる。 ・Illustratorの塗り/線の色を操作することができる。 ・Illustratorのパスで描画した図形や文字をアウトライン化することができる。 (2)ラスターデータについて ・Photoshopを用いて写真の明るさや色調を補正することができる。 ・Photoshopのフィルタ機能を使うことができる。 ・Photoshopのレイヤー効果を使い、文字や画像にスタイルを設定することができる。 ・Photoshopで複数の写真を合成することができる。 (3)紙面デザインについて ・IllustratorとPhotoshopを適切に用いて、ビジュアル的な紙面を作成することができる。 ・ガイドや定規の機能を用いて、レイアウトを計画することができる。					○	○	◎	○			

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解				思考・判断			意欲・態度			
			幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得
WEBデザイン1	Webページは、文字や画像、動画、音楽といったマルチメディアコンテンツを統合的に表現することのできる非常に優れた情報媒体であり、一般的にはHTML(Hyper Text Markup Language)によって記述されている。しかし、一般人が作成するWebページでは、製作者の環境(OSの違い、webブラウザの種類、等)や主観に依存する表現が多用され、HTMLの原則が守られていないのが現状である。本講義では、Webページ制作に求められるコンテキストデザイン、ユーザビリティ、ビジュアルデザイン、アクセシビリティの4要素を正確に理解し、Webページ制作の実務に耐える技能を身に付けることを目標とする。	(1)ページ制作について 文法規則に則って与えられた情報(文書)を適切にHTML化できる。また、CSSを用いて目的のデザイン表現を記述できる。 人間の視覚特性について学習し、Webページ上で効果的な導線を作ることができる。 (2)サイト構造について 情報の収集から構造化までの一連の作業について学習し、Webサイト構造を設計することができる。 保守管理の側面から、適切な階層構造、ファイル名、等を用いて、複数のページからなるWebサイトを構築できる。 (3)素材の管理について Webサイト上で様々な素材(マルチメディアコンテンツ)を利用できる。また、知的財産権について正しい知識を身に付け、一般の素材サイト等を正しく利用できる。					○	○	◎	○			
WEBデザイン実習1	Webページは、文字や画像、動画、音楽といったマルチメディアコンテンツを統合的に表現することのできる非常に優れた情報媒体であり、一般的にはHTML(Hyper Text Markup Language)によって記述されている。しかし、一般人が作成するWebページでは、製作者の環境(OSの違い、webブラウザの種類、等)や主観に依存する表現が多用され、HTMLの原則が守られていないのが現状である。本講義では、Webページ制作に求められるコンテキストデザイン、ユーザビリティ、ビジュアルデザイン、アクセシビリティの4要素を正確に理解し、Webページ制作の実務に耐える技能を身に付けることを目標とする。	(1)ページ制作について 文法規則に則って与えられた情報(文書)を適切にHTML化できる。また、CSSを用いて目的のデザイン表現を記述できる。 人間の視覚特性について学習し、Webページ上で効果的な導線を作ることができる。 (2)サイト構造について 情報の収集から構造化までの一連の作業について学習し、Webサイト構造を設計することができる。 保守管理の側面から、適切な階層構造、ファイル名、等を用いて、複数のページからなるWebサイトを構築できる。 (3)素材の管理について Webサイト上で様々な素材(マルチメディアコンテンツ)を利用できる。また、知的財産権について正しい知識を身に付け、一般の素材サイト等を正しく利用できる。					○	○	◎	○			
WEBデザイン2	近年の様々な技術の発達により、Webサイトは、HTML、cssのみを用いて表現される静的なものから、スクリプト言語やサーバサイドプログラムを併用した動的なものへと変化している。 この講義では、Webサイト上で“動き”を表現する基本的な技術として、HTML5から公式なスクリプト言語として採用されたJavaScriptの基礎を学習する。また、JavaScriptの公式なライブラリとしてjQueryを紹介し、自分のサイト上でjQueryを利用するための手順を	(1)ページ制作について 春学期に開講されたWEBデザイン1の内容を応用し、cssを用いてページのレイアウトができるようになる。 (2)JavaScriptについて JavaScriptでプログラムを利用するために、既存のHTMLファイル内に必要な記述を加えることができる。 与えられたプログラムソースを、自サイトで利用することができる。 自分で目的の動作に合わせてプログラムソースを改変、記述することができる。 (3)jQueryについて インターネット上から必要なライブラリをダウンロードし、自サイトにjQueryを導入することができる。 所望の動作を実現するために、既存のソースをカスタマイズすることができる。					○	○	◎	○			
WEBデザイン実習2	近年の様々な技術の発達により、Webサイトは、HTML、cssのみを用いて表現される静的なものから、スクリプト言語やサーバサイドプログラムを併用した動的なものへと変化している。 この講義では、Webサイト上で“動き”を表現する基本的な技術として、HTML5から公式なスクリプト言語として採用されたJavaScriptの基礎を学習する。また、JavaScriptの公式なライブラリとしてjQueryを紹介し、自分のサイト上でjQueryを利用するための手順を	(1)ページ制作について 春学期に開講されたWEBデザイン1の内容を応用し、cssを用いてページのレイアウトができるようになる。 (2)JavaScriptについて JavaScriptでプログラムを利用するために、既存のHTMLファイル内に必要な記述を加えることができる。 与えられたプログラムソースを、自サイトで利用することができる。 自分で目的の動作に合わせてプログラムソースを改変、記述することができる。 (3)jQueryについて インターネット上から必要なライブラリをダウンロードし、自サイトにjQueryを導入することができる。 所望の動作を実現するために、既存のソースをカスタマイズすることができる。					○	○	◎	○			
情報ネットワーク論1	シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深めます。この科目ではCCENT,CCNA Routing and Switching最初のカリキュラムであるIntroduction to Networks(Network Basics)を実施します。	・カリキュラムの小テスト問題を通じてCCENT,CCNAの基礎知識を身につける。 Final Examを通じて、次のカリキュラム、試験合格レベルの知識を修得する。 最終的にはCCENT,CCNA Routing and Switchingの取得を目指します。					○	○	◎	○			
情報ネットワーク実習1	シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深める。最終的には、CCNA R&S(Cisco Certified Network Associate Routing and Switching)の取得を目指す。この科目では、カリキュラムのCCNA R&S: IN(Introduction to Networks)の知識を基にCCNA R&S: RSE(Routing and Switing Essentials)を実施し、Cisco ルータ・スイッチの基本設定等について実機実習を通じて学ぶ。	・CCNA R&S: RSE カリキュラムの章末試験および最終試験において、70%以上の得点を取得できるよう知識を身に着ける OSI モデルおよびTCP/IP モデルを説明できる 要件にしたがいサブネット作成(計算)ができる PC の基本ネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS)ができる ルータおよびスイッチの基本構成(コンポーネント)を理解し機器を適切に扱うことができる Cisco IOS CLI を通じてルータおよびスイッチに対して基本的な設定を行うことができる ネットワークポロジ図にしたがい適切なケーブルを用いて正しく配線(ケーブルリング)できる					○	○	◎	○			
情報ネットワーク論2	シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深めます。この科目ではCCENT,CCNA Routing and Switching最初のカリキュラムであるIntroduction to Networks(Network Basics)を実施します。	・カリキュラムの小テスト問題を通じてCCENT,CCNAの基礎知識を身につける。 Final Examを通じて、次のカリキュラム、試験合格レベルの知識を修得する。 最終的にはCCENT,CCNA Routing and Switchingの取得を目指します。					○	○	◎	○			

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

専修	専修	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	知識・理解					思考・判断			意欲・態度			
					幅広い教養、基礎知識の修得	経営の基礎的専門知識の修得	会計・財務の基礎的専門知識の修得	情報活用に関する基礎的ICTの理解	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得	健全な職業観や就業観の涵養	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得	
		情報ネットワーク実習2	シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深める。最終的には、CCNA R&S(Cisco Certified Network Associate Routing and Switching)の取得を目指す。この科目では、カリキュラムの CCNA R&S: IN(Introduction to Networks)の知識を基に CCNA R&S: RSE(Routing and Switing Essentials)を実施し、Cisco ルータ・スイッチの基本設定等について実機実習を通じて学ぶ。	・CCNA R&S: RSE カリキュラムの章末試験および最終試験において、70%以上の得点を取得できるよう知識を身に着ける ・OSI モデルおよびTCP/IP モデルを説明できる ・要件にしたがいサブネット作成(計算)ができる ・PC の基本ネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS)ができる ・ルータおよびスイッチの基本構成(コンポーネント)を理解し機器を適切に扱うことができる ・Cisco IOS CLI を通じてルータおよびスイッチに対して基本的な設定を行うことができる ・ネットワークポロジ図にしたがい適切なケーブルを用いて正しく配線(ケーブルリング)できる					○	○	◎	○				
		ネットワーク構築	LANやインターネットなどの情報ネットワークの実際は、ルータやスイッチなどのネットワークデバイス、UTPケーブルやファイバケーブルなどの各種メディア、そしてサーバによって構成されている。現代における情報ネットワーク上の通信はすべて「クライアント/サーバ方式」であり、サーバによりサービスが提供されて、はじめて「ネットワーク」の存在価値があるといえる。このため、サーバに関する知識を深めることは、ネットワークを理解するうえで非常に重要である。 本科目では、ネットワークに不可欠であるサーバに注目し、実際にサーバシステムの構築を行うことによって、サーバおよびネットワークに関する知識を深めることを目的とする。構築にあたっては、サービスをインストールして動作させることにとどまらず、安定運用のための管理方法やセキュリティ対策	・基本的なUNIXコマンドについて参考書なしで使いこなすことができる ・UNIX OS(Linux)を計算機にインストールできる ・UNIX OS(Linux)のディレクトリツリーの概要を理解して説明できる ・テキストを参照しながら所望のサービスやアプリケーションをインストールできる ・テキストを参照しながら所望のサービスやアプリケーションを適切に設定・起動し提供できる ・サーバログや統計情報などのステータスをチェックして説明できる					○	○	◎	○				
専修	専修	必修	専門ゼミナール1	担当教員の専門分野を中心に解説、指導が行われる。最終的には「創造的で発展的な意思決定」ができるようになることを専門ゼミナールの共通の目標とする。	共通の方法として、ゼミナール形式により、まず、課題決定のための基礎的な知識の修得や論文調査等の指導を行う。	△	○	○	○	◎	△	○	◎	◎	○	○
		必修	専門ゼミナール2	同上	専門ゼミナールとしての共通の目標に向けて、基礎的な知識の修得や論文調査等を行いつつ、研究課題の決定を行う。	△	○	○	○	◎	△	○	◎	◎	○	○
		必修	専門ゼミナール3	同上	ゼミナール形式により、各学生の研究課題に対するこれまでの研究とその成果を中間レポートとしてまとめさせ、中間発表を設定し指導する。	△	○	○	○	◎	△	○	◎	◎	○	○
		必修	専門ゼミナール4	同上	ゼミナール形式により、各学生の研究課題に対する研究とその成果を、卒業論文および卒業論文の発表までを指導する。	△	○	○	○	◎	△	○	◎	◎	○	○
			◎		128	13	4	6	7	10	15	40	11	8	6	8
			○		311	51	19	10	13	64	54	33	43	6	10	8
			△		8	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
						145	50	38	47	158	157	186	119	36	38	40